

議事録

項目	第3回 水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会 環境部会		
協議日時	平成30年9月28日（金） 14:00～16:00		
協議場所	熊本市動植物園 緑の相談所 2階会議室		
協議者 (敬称略)	熊本大学大学院 先端科学研究部 環境保全分野 准教授 熊本県立図書館 学芸調査課 課長 (一社)熊本市造園建設業協会 水前寺江津湖公園サービスセンター所長 熊本県文化協会 理事 熊本記念植物採集会 副会長 熊本野生生物研究会 事務局企画担当 自然観察指導員熊本県連絡会 事務局長 日本野鳥の会熊本県支部 副支部長 水と緑ワーキンググループ 代表 幹事 関係課、事務局	皆川 朋子 (部会長) 丸山 伸治 中島 憲久 轟 多朗 奥村 智治 歌岡 宏信 田畑 清霧 坂梨 仁彦 大住 和子	
<議題> (1) 前回会議の振り返り・今回の検討事項 (2) 水前寺江津湖公園の課題について (3) 計画の基本的考え方について (4) 今後のスケジュールについて 【議事録】 ●皆さん、こんにちは。水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会環境部会をこれから開催させていただきます。今日の議題といたしまして、(1)から(4)になっています。それでは早速議題の方に入りたいと思います。初めに、前回会議の振り返りということで、事務局の方から説明をお願いします。(皆川部会長) ～議題(1)「前回会議の振り返り・今回の検討事項」説明後～ ●はい、ありがとうございました。先ほどのご説明においてご意見、ご質問等ございましたら、お願いします。いかがでしょうか？ 特にございませんか。私の方から質問ですけれども、資料2で基本的な考え方というところで、これを今回の部会でまとめて協議会へ臨むということだと思わなければならないんですけど、ここにゾーニングという言葉が残ってしまっていますが、それは修正しなくてもよろしいでしょうか？(皆川部会長) ●ゾーニングについては、前回まで議論を進めていたゾーニングといいますか、まず今どのエリアでこういったことが行われて、今後共存・共生を図っていくといったご意見をいただいておりますので、それについては今後も議論を進めていきたいとは思いますが、協議会では「課題」と「計画の基本的考え方」ということで協議会では議論を進めていきたいなど、もちろんゾーニングは今回で終わることなく、その次も続けていきたいなと思っておりますので、今資料上では残させていただきます。(事務局)			

●何か誤解あるように見受けられるかと思いますが、長期が第2回で、その後中期・短期が決まってきて、たぶんその辺のところからゾーニングが具体化してくると思いますので、色々なことを議論しているんですけども、ここに書いてしまうとここで決まってしまうというふうに捉えられる可能性がありますので。(皆川部会長)

●今部会長おっしゃられるとおり、中期短期の具体的方策の中で、ゾーニングというのも決まってくるので、表現上この二段目につけておりますけれども、下の中期短期の方にゾーニングというのも書き加える形でしたいと思います。(事務局)

●他に何かございますでしょうか？

はい、それでは次の議題に移りたいと思います。2番目の議題としては、水前寺江津湖公園の課題についてということで、資料が3～6で少し多いと思いますが、事務局よりご説明をお願いします。(皆川部会長)

～議題(2)「水前寺江津湖公園の課題について」説明後～

●はい、ありがとうございました。中学生の意見、協議会委員の意見、またアクティビティ・マネジメント部会の意見、マーケットサウンディングについてということでご説明いただいたんですけども、最初に確認だけさせていただきたいと思います。中学生の要望等についてワークショップでされているとご説明をいただきましたが、主催はどなたが、どなたが実施したのでしょうか？(皆川部会長)

●東区役所の東部まちづくりセンター、今日はちょっと欠席なんですけれども、そちらで主催しております。(事務局)

●継続している取組みになりますでしょうか？この部分をピックアップしてお示しいただいたという内容になりますよね。それでは一つ一つ確認していった方がよろしいかと思っておりますので、まず中学生の意見で、始められた経緯をご説明いただきましたが、それについて何かご質問等がございますでしょうか？(皆川部会長)

●対象は20名ですけども、どんな生徒で構成されているのですか？(坂梨委員)

●東部まちづくりセンターが主体で開催をしているんですけども、中学生の中でも代表の方、手を挙げられた方、各中学校から4、5名ずつが集って、全体が20名ということで会議をされているようです。(事務局)

●毎回20名の方が来られるという中でメンバーチェンジはなくて、代表の方がずっと参加しているということですか？(皆川部会長)

●その時、その時で少し人数は変わるんですけど、基本的には同じ方で会議をしているという形です。詳細については東部まちづくりセンターへ確認をしたいと思います。(事務局)

- 関連で言います。中学生達を集めて出してもらった意見を、この場でこういただきましたけれども、本来、どこに出す、どういうふうに活用するという形で集められたものですか。もともとの趣旨は？（田畑委員）
- 東区のいいところ、これを広めることを目的として、こういったことがいいのではないのか、色んな夢とか、そういったものを語っていただいたというか、この出た意見をそのまま使うかどうかというのは、イコールではないのかなと、このあたりもまた確認したいと思います。中学生の一つの意見ということで、今後資料の右下に書いてありますとおり、中学生会議を活用して、子ども達の声もヒアリングしていくと、そういう声も計画の中にも取り込んでいくという趣旨で、参考としてつけさせていただいております。子ども達の意見をこれだけでいただくということではございません。あくまで一例として、今回挙げさせていただいております。（事務局）
- 子ども達の意見というのはかなり重要視される傾向にあるので、例えばそういう意見をいただく時にも、例えば大人が、科学的な情報を持って、それを踏まえて、ディスカッションしてもらおうとだいぶ意見も変わっていくと思いますので、そのあたりを懸念されているのかなと思いました。（皆川部会長）
- もう一つは、坂梨委員からもありましたけれども、会議に出ることが好きな子なのか、江湖で実際に遊んだことがある子なのか、どういう子の意見であるのかということで、意見の方向性もだいぶ違ってきます。これを子ども達の代表的意見として扱うのは影響が大きすぎて心配です。どういう子達の意見なのかなと気になるところです。（田畑委員）
- 意見を聞いたときと今回の方向性の目的が多少は違う可能性があるということで、参考資料ということですよ。また必要性があればそういうことを見越して、中学生の意見をいただくことになるかもしれないということですか？（皆川部会長）
- 中学生会議は昨年のやられたものなんですけれど、今年度もやられている。やはり私達としては、子ども達の意見というものも聞いていかないといけない、そこを大事にしていきたいと思っていて、このスキームというのを例えばこの中学生会議を一つとして活用させていただきながら、今後も声を聞いていきたい。これも一つですし、他にもヒアリングの手法もあると思います。こういった計画を今後策定していく中で、どんどんやっていきたいと、そういった意味で捉えていただければと思います。（事務局）
- そういう意味でも中学生に限らず、小学生であったり、色んな対象の方に対するヒアリングというのが重要なという気がします。（坂梨委員）
- 今後も多様なご意見は何っていききたいなと思っております。（事務局）
- それが情報の共有化にもなると思いますので、できればそういった広く、課題をきちんと情

報共有しながら、次のステップに進むというところで色んなご意見をいただいた方がフレッシュなのかなと思います。(皆川部会長)

●ご意見を色んな方からいただくというのは、逆に言うと宣伝しているということにもなると思うんですね。熊本市は江津湖のことを考えているんだということを色んな方に宣伝することにもなるので、そういう面で色んな場所で聞いていくというのは非常に大事なのかなと思います。(坂梨委員)

●本当に共有化されるように、意見の抽出方法ということを考えてやると、よりよく発信できるようになると思います。それでは次に協議会委員の意見ということで、資料4で示されていましたが、前回の協議会の後にヒアリングをされてまとめられたということになりますよね？(皆川部会長)

●そうです。部会に入られていない協議会委員の方のご意見です。(事務局)

●これについてはたぶん質疑等はないのかなと思うんですけども、色んなこれまでの作業部会や環境部会でいただいたご意見に加え、様々なご意見をいただきましたので、これも大事に汲み上げていきたいと思います。何かこれに関してご意見はございますでしょうか？よろしいでしょうか？この部会に参加されていない方のご意見も踏まえながら、今後進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか？

マーケットサウンディングについて、今は個別相談会が終わって、質問に対する回答ということでご説明いただきましたが、具体的にはどういう質問がなされているのか、ご紹介いただければと思います。(皆川部会長)

●質問があったところ、今ホームページには公表しているんですけども、例えばご提案の中で江津湖全体での提案なのか、一部でもいいのかであったりとか、利活用と言った面で火気を使った、例えばバーベキューであったりとか、そういったことも可能であるのか、あとは宿泊関係はどうなのかなどとか、あと対象としては動植物園もあげておりますので、動植物園の収支状況についても知りたいといったり、そういったご質問をいただいております。(事務局)

●細かいところはお聞きできていますか？(皆川部会長)

●これは流れとしまして、説明会ということで、この興味がある方で、20数社ご参加いただきました。こちらで簡単な江津湖の概要というものをご説明し、この動植物園とか、南門の外とか、江津湖の現地もみていただいたといったところを8月に開催をしております。それに参加した方でないとな提案できないとか、というわけではなくて、今日から提案募集をしておりますけれども、この期間内に誰と構わずご提案をいただきたいということで、ご提案するにあたって、分からないことがあった方へ先週、質問、個別相談会というものを受けたと

ころです。(事務局)

- 11月中旬に調査結果の概要公表ということですが、調査結果とは何でしょうか？何か判断基準があるのですか？(皆川部会長)
- こういったご提案があったというものを公表したいなと思っています。それですぐ実施ということではなくて、今江津湖の会を開いていますので。(事務局)
- どういう事業者さんが多かったのですか？(田畑委員)
- 今サウンディングが途中段階でございますので、あまり具体的な部分がこの段階で、これもオープンな会議ですので、色々提案の中で出てしまうとちょっと懸念しますので、そこは控えさせていただければと思います。結果が出た後は、例えばそういった、どここの地区でこういったような意向があったとか、そういった部分については出せると思っているんですけども、ただ出し方についてもその方、提案があった方のノウハウに関わるような部分までは出せないですね。その辺かなりシビアなところで、すみませんが控えさせていただければと思います。(事務局)
- 具体的にアクティビティ・マネジメント部会の方と環境部会の方と、それから協議会の方のご議論を踏まえこれから長期・中期・短期の色々な方針が示されていきますが、その中でマーケットサウンディングのスケジュール的なものは、具体的な方向性が見えてから行うものと勝手に思っていました。今の段階であまり方向性に合わないものがたくさん出てくる可能性もあるのかと思いますが、サウンディングのタイミングは、他の事業でも方針が決まる前から行うのが一般的なのですか？(皆川部会長)
- 他の自治体、色々様々だと思います。例えば、公園にカフェをつくるというありきでサウンディングしてある自治体もありますが、熊本のように市場性がないのに、ポテンシャル等がないのに民間活力の導入だと言っても、提案があがってこないという形にもなっています。今回、利活用と環境保全の計画をつくるということで、人口減少がくる中で、維持管理もなかなか難しく、やはり民間活力、民主体という部分も考えていけない、民間活力だと言った時に市場性というものをしっかりと把握した上で、計画に盛り込んでおかないと絵に描いた餅になってしまう。(事務局)
- ポテンシャル調査で維持管理もかなり重要なポイントに、重視するということを出したいということですよ。(皆川部会長)
- そうですね。今回何かここに置くということを決めるサウンディングではなくて、資料6の上段、中段くらいに書いておられますが、対話によって利活用、それじゃこういったものが民間さんが考えられるアイデアがあるのか、その市場性があるのかという、ここが一番のポイントだと思っているんです。それを今回把握したいと、把握した上であくまでも計画上は、環境部会も利活用部会も一緒なんですけれど、やはり江津湖というのは自然環境ベースだと、

それが一番のポテンシャルだとこれはもう共通しています。どちらの部会も。ですのでそれに合う、のってくるようなアイデアというのを当然ながらピックアップしていかないといけないと思っております。(事務局)

●マネジメントの計画に関するということですか。(皆川部会長)

●そうですね。それともう一つあくまで計画に反映した上で、もう一度サウンディングはする予定なんです。今回のサウンディングの内容というものをこの並行して行っている計画に反映させていきますよね。それで計画策定した後に、もう一度サウンディングをします。それから公募をします。(事務局)

●スケジュールのところにそれが分かるように入っているといいんですけど。できれば部会の欄あたりに入っていると分かりやすいと思いました、コメントです。
先ほども事務局からご説明がありましたが、アクティビティ・マネジメント部会の基本的考え方も、最初も今もお話いただきましたように、環境保全をまず大事にしていこうということで、安心したところです。(皆川部会長)

●特に基本的考え方(1)魅力と質の向上の部分で、丸がいくつつかっていますけれど、利用者ニーズにあった公園運営であるとか、ニーズにあったサービスの提供だとか、ただその下に書いてあるのは、“自然環境に配慮した利活用の取組みの実施”この部分については部会の中から意見がでてきたので、あえてこのキーワード、柱の中に入れていただいております。(事務局)

●一番環境部会ででも懸念しているところでもありますので。他にはよろしいでしょうか？(皆川部会長)

●今回の他の部会のご意見をご紹介させていただいたところで、今後こちらの部会の意見はもう一つの部会の方にも話をしておりまして、皆さんでまずは現況とか課題を共有した上で、その後の施策に繋げていきたいなというところで考えております。補足という点はないんですけども、引き続きまずはベースを固めていくというのが大事だと思っておりますので、こちらはあえて今回ご説明させていただいたところでございます。(事務局)

●それでは次に移らせていただいてもよろしいでしょうか？

はい、それでは議題(3)計画の基本的考え方について、ご説明お願い致します。(皆川部会長)

～議題(3)「計画の基本的考え方について」説明後～

●はい、ありがとうございました。ご意見、ご質問等ございませんでしょうか？

まず基本的考え方について、このA3の資料について方向性、キーワードをあげているということで、課題と今後どのようなことが必要なのかということの説明いただきましたが、不

足、加えるべき点、コメント等いただければと思います。ちなみに基本的考え方の「生物多様性の保全とともに、江津湖の持つポテンシャルを最大限に発揮し、誰もが誇れる、上質な公園空間の創出を実現する」は共通の方向性で示されているもので、環境部会に特化したものではないということで、よろしいですか？（皆川部会長）

●そうです。環境部会と利活用部会の大きなテーマです。（事務局）

●キーワードを集約してのタイトルではないと。（皆川部会長）

●そうですね、大枠、理念というか、その上段にあるものというように捉えていただくと、ただこれがフィックスされているという認識ではないです。当然ながらですね。これも今回の部会もしっかりですが、次回10月10日の協議会の中でもご議論いただいとっております。（事務局）

●バランスの良い文言だと思います。どうがどうというのは難しいんですが、ニュアンスとしまして、誰もがってというのはたぶん“人”ってということでしょう。“人”にとって上質な空間というイメージだと思うんですが、多くの生物達にとっても誇れて、上質なっていうニュアンスがどこかに強調されるとうれしいなと思いました。（田畑委員）

●ここは今回の議論の対象でもよろしいんですか？（皆川部会長）

●よろしいですよ。大丈夫です。（事務局）

●環境部会の資料として今日見させていただいて、環境部会だったらこういうタイトルだっていうのは、意見も私もしたんですけども、その辺はまたこれから環境部会の中で。（皆川部会長）

●利活用部会で出したものとまずは同じでお見せした方がよろしいかと思って。（事務局）

●環境部会としても、作業部会でも意見ありましたとおり、これをもう少し全部包括させたようなタイトルをつくろうということで、動いていますので、また議論になると思います。（1）から（4）までキーワードを設けていますが、修正、加筆等ございましたら、ぜひご意見いただきたいと思います。（皆川部会長）

●4つの内の②の表現なんですが、最初の「動植物の消失・減少」それから「外来種の侵入・拡大」「エコトーンの減少」「市街化」「人の立ち入りによる生物への影響」は“影響”が”増大”か何かと思うんですけども、いかがでしょうか？（田畑委員）

●修正していただいてよろしいですか？（皆川部会長）

●大丈夫です。可能です。（事務局）

●他にご意見ございませんでしょうか？

歴史文化はいかがでしょうか？（皆川部会長）

●③のところで「歴史・文化の継承と活用」ということで、私が言ったことも入れていただいてありがたいと思いますけれども、何か庭園とかだけに特化しているように思いますので、例えば庭園に関して言えば、砂取邸庭園のことも申し上げたんですが、成趣園そのものの管理の問題もありますし、その他にもいくつかありましたよね。周辺で活用するなら、神水苑の庭園も価値づけできますし、有吉邸の庭園とかもありますから、そういったのも一体としてあっていいですし、またそれだけではなく、“生活生業”のことも申し上げましたけれども、この地ならではの行われている“生活生業”を体験するというのが一つあっていいのかなと思います。漱石の俳句中に象徴的なものとして、白魚漁をしているとか、藻刈り船が出ていて、それを眺めているような様子があったりするわけですが、それは歴史的にあった風景だと思うんですよ。それからスイゼンジモヤシであったり、そういったものも文化的資源として、“生活生業”という趣旨でどこかに入ってもいいのかなと、そういう生業が何らかの形で行われることが、おそらく生物多様性の担保につながっていくのではないかなと思います。（丸山委員）

●はい、ありがとうございます。ぜひ“文化的資源”、“生活生業”というような言葉もキーワードとして、入れていただければなと思います。（皆川部会長）

●文化的資源というような形の意味ですね。そういった形でさせていただければと思います。（事務局）

●ちょっとした言葉、キーワードを入れ込んでおくことは、この段階だと重要だと思いますね。ぜひお願い致します。

①から④に関して不足していることなどあるかと思いますので、ぜひご意見いただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか？（皆川部会長）

●水循環という言葉が入っているのですが、もうちょっと具体的に、“上流との関係”、“流域のつながりをもっと強める”ということが重要になってくると思います。（大住委員）

●私もそう思います。“流域”はこれまでもキーワードとして出てきていますので、例えば森林の問題であるとか、水田の保全の問題とか、全部ひっくるめると、地下水の涵養に入ってしまうと思いますが、“流域”という言葉は、やはり、江津湖から流域に向けて発信という位置づけにおいても重要だと思います。ご検討いただけたらと思います。（皆川部会長）

●そうですね、実際涵養の取組みも上流域の森林であったりとか、田んぼ、そういったところで涵養して、江津湖で湧いてきているといったような保全ということでもありますし、関わりという面でもですね、“流域”という言葉は重要であると思いますので、どうにか入れ込みたいなと思います。（事務局）

- これから中期とか短期の目標決まってくるので、重要なキーワードは入れることでよろしいかと思っておりますので、よろしくお願い致します。(皆川部会長)
- 読んでみると非常に何かわくわくするくらい頑張るぞという気配なのですが、一番心配なのが、” 頑張りすぎない” というのがどこかにないと恐いと思います。頑張りすぎると結果的に整って、使いやすくなって、生き物がいなくなったとなるかもしれない。そのバランスを常に意識しておくという文言がどこかにほしい。どこに入れるかは難しいとは思いますが、でも、人が頑張りすぎる、我々が頑張りすぎることによって、結果的に自然環境、多様性が失われてしまうということにならないような、そういうブレーキなり、ちょっと抑えるなり、ということも言葉としてどこかにほしいと思います。(田畑委員)
- それは「自然と人との共存・共生・配慮のあり方」というところに込められていると思います。(皆川部会長)
- そこだけに入るのではなく、トータルの中に本来いるのかなと思います。トータルの中で、人が我慢するっていう部分も入れておかないと、ワッと人が利用して、残ったこのエリアで自然頑張るって、生物頑張るってだと危険です。全体の中に、こうした方が便利なんだろうけど、トータルバランスでここは我慢するよ人側が、というところもいるのかなと思います。そういうニュアンスがほしい。読みながらどこに入れるか分からないんですが、非常に心配になりました。(田畑委員)
- 先ほど田畑委員おっしゃられていましたけれど、生物多様性のところで、人の立ち入りによる生物への影響という、つまり人が立ち入れば生物に何らかの影響が及びますよと、その影響は多くの場合は悪影響なんですよということを他の部会の方も目にするように、もう少しアピールした方がいいんじゃないかなと思います。それをどこでどう言うかですね。(博物館)
- そうですね。昨日、共生を個別に出すことを検討したんですけども、別の項目ですかね。でも生物多様性の保全に入ってきてしまうということもあって、それでここで収まったというところまで今日の資料になりました。(皆川部会長)
- 今議論はいただけてますけれども、人と自然両方が使う場所ですので、そのバランスというのはやはり一番大事なところなのかなと思うんですが、そこをどう小出しにするのか、今は確かに「共存・共生・配慮」というところで、全部を含んだつもりで書いてはいるんですけども、今博物館が言われたようなことは、おそらくそこだけではなく、もっと大上段であってもいいんじゃないかとか、そういったような考えなのかなと思うんですが。田畑委員のご質問でちょっと確認なんですけれども、その頑張りすぎないという部分っていうのは、こういったどちらかという環境面の取組み、これについてもあまり頑張りすぎないというイメージですか？(事務局)
- 人の利用をという意味合いです。人の利用そのもの、例えばゾーニングですが、結果的に利

用していいよとなった場所にしても毎日運動会があつては困る。また、通りやすくしようと、皆が道を利用しやすいようにする。皆が自然と親しめるようにということで、人は気持ちよく親しめるんですけど、大勢が高い頻度でどこもかしこも立ち入りやすくなってしまうと、一人ひとりの関わり方はわずかですが、江津湖というのはそんなに広いエリアではありませんので、その自然の生き物達、自然環境そのものにとっては過度の利用になってしまうのではないかと心配します。色んな企画がたくさん出てきておりますので、これが全て実現してしまうと、活用しすぎになるのではないかと思います。便利になると人は来ます。来すぎると魅力が消えます。そのバランスが難しいと思います。(田畑委員)

- そこに関しては今後ゾーニングというところで、お互いが共存・共生するところですので、あるいは配慮するゾーンというのを上手く設定ができればなと思っております。(事務局)
- 単なるゾーン分けで終わるのではなく、ここはどの程度使っていいのかという頻度まで含めてほしい。人が集ればいいと精一杯集れば、大濠公園みたいになってしまう。ここは江津湖という本来の自然のベースが非常に高いところです。利用する人数を競い合ってしまうような企画になってしまうと、利用しすぎて元も子もない状態になってしまうのではないかと心配しております。だからゾーニングで分けたここはOKとかではなく、トータルのキャパを考えて自然と共生したい。人間側は結構ぐいぐい行くんです。生き物側はどんどん消えていく、気が付いたら消えているというのが全国各地で起きています。人間がかなり用心して、利用していいと決めた場所でも利用の頻度をかなり抑える必要がある。かなりと言っても人によって考えが違うので、難しいんですが。(田畑委員)
- 例えば先ほど言ったような②のところに「自然と人との共存・共生・配慮のあり方」これがどちらかという大上段の方にもうちょっとその強みが足りていないということなので。(事務局)
- ②に生物多様性の保全とその後ろにこの言葉をもう少しそういう意味合いを含めて、生物多様性の保全とその後ろの言葉これから検討なんですけれども、②のタイトルに含めたらいいと思うんですよ。(皆川部会長)
- 私今思ったのは、例えば「生物多様性の保全とともに」と大上段にある中で、「自然と人との共生のバランスに配慮しながら」とか、「しながら江津湖のポテンシャル」につなげていくといった意味合いです。保全というかそのバランス、その頑張りすぎないとか、それが逆に弱くなってしまうのかは分かりませんが、そういう今おっしゃられている意味合いはそういうことかなと私が思ったので、どちらかと言うと、その②の部分というよりも大上段の部分に。(事務局)
- 大上段を言ってしまうと、歴史文化という言葉がないですね。ここに、ポテンシャルという言葉と、生物多様性だけ入っているんですけども、歴史文化がないですね。入れたいと思っています。なので、大上段というよりはもう少し下の部分、環境の方針の部分になってくると思いますので、②のところにもう少し大きめにタイトルを入れるとかですね。(皆川部会)

長)

- 大上段にも入るなら入ってもいいと思うんですけども。(田畑委員)
- そうなんです。それでは歴史文化もという話もあるかもしれませんが。(皆川部会長)
- 利活用部会でも言葉の綾で話しているわけではなく、利活用部会の方でもやはり今の江津湖の環境というのをベース、保全しながら、保全がありきというような、全く同じ考えですので、先ほどみたいな形をあえて利活用部会の中にも入れないといけないよねという議論が出ているくらいです。私大上段の方でもいいのかなと思っております。(事務局)
- ②の方はまだ修正可能ですので、それが分かるように、マインドが伝わるように修正を検討しましょう。(皆川部会長)
- 大上段にも下にも載った方がいいような形なのかと思いますよね。(事務局)
- おそらく一方で、今の話を聞いていますと参考でイベントのガイドラインということが作成されることもかなりの懸念にもなると思いますので、その大上段に含めるということで、ご検討いただければと思います。他にございますでしょうか？
それではよろしいですか。イベントガイドラインの作成ですけども、これはいつを目処に作られるご予定なのか、例えば今回の話にもありました通り、そういったことも踏まえてこれからゾーニングが決まってくると思います。ガイドラインが先に走ってしまうとちょっと調整が難しくなるのかなと思いましたが、例えばどういうスケジュール予定で、この利活用の方とどのようなやり取りをしながら決められるのか、今後のスケジュールについてお伺いしたいと思います。(皆川部会長)
- このゾーニングの方が当然ながら先だと認識しております。それは星野先生もそういう考えです。環境の考え方があって、利活用はその上に載っていくんだみたいな意味合いというのが利活用部会の考え、認識です。ですので、そちらが先だと思います。このイベントガイドラインについても、どちらかという、てんやわんやの賑わいイベントをしようという話ではなくて、下に書いていますけれども、イベントの利用の目的、どちらかという、公園はこういうことはやっては駄目だという禁止行為と言われるものがかなり多くて、公園って使えないものなんだよねみたいなイメージって今よく言われることがあります。ただ公園という皆さんに使ってもらってという考え方が当然あってのものだと思っています。ただ江津湖で全てのイベントの利用目的が合うかという私は今回の議論を踏まえて言うと、そう思っていない、今書いておりますが、2の(1)、当然ながら公共空間、都市公園なので、公共的な目的じゃないといけません、さらにその中でも例えば健康というキーワードに資するようなイベントであるとか、環境とか、そういった切り口というのをある程度絞り込んだものでのガイドライン、そういったものがあってもいいのかなと、あくまでイメージですけども。それは今後議論だと思っておりますので、イメージとしてはそういった絞り込みあての使い方をきちっとアピールしていったら、そういったイベントが開かれていくことに

よって、健康増進にも繋がっていきますし、歩かれる方が増えていたり、環境に興味を持つ方が増えていたり、そういったことを江津湖に来ていただいて、江津湖の魅力やはり知られていないという方も多いというご意見も今回多く聞きましたので、そういったことに繋げていきたいというようなイメージです。その作るスケジュール感としますと、利活用部会の方で今回計画の策定、来年度の早い段階と考えています。その中で並行して併せて作っていきたいと考えております。（事務局）

●分かりました。他にありますでしょうか？（皆川部会長）

●野鳥の会や自然観察会のように江津湖で観察会をやる時に許可とってますか？とらないといけないんですか？（奥村委員）

●観察会に限ってですか？特化してはいいですね。（東部土木センター総務課）

●観察会というのは許可申請ではなくて、団体利用申込書というのでやってもらって、窓口はサービスセンターでやっています。許可申請であったら東部土木センターで窓口は二つあるんですけども。内容次第ですよ。情報は共有しております。（中島委員）

●他にございませんでしょうか？

最後に「エリアマネジメントの取組み」ということで、ご説明いただきましたが、ちょっと流れがよく分からなかったのですけれども。すみません。（皆川部会長）

●今後、全国の自治体同じですが、やはり行政主体というような形で公園を運用というよりも、地域の方々であったり、近くの事業主の方々が一緒になって、例えば共同のイベントの取組みも単発ではなくて、一緒にやっというとか、防災の取組みも単発ではない、皆さんでの共助ということ、一緒にやっというとか、情報の発信もしかりです。こういったところが全国でも今行われているというところなんです。今水前寺エリアで、色んなイベントがやられていますけれども、例えば今のそういった部分を連携して、イベントもやってみたり、そのPRというのと一緒にやっというとか、そういった部分があくまで今はイメージではありますが、協議会というのはこのエリアマネジメント組織というのを成しているようなものだと考えていたりもします。今後皆さんとともに、こういった下に載っていますよね。事業主さんも地域の方々も入っていただいておりますので、今後もこういったことについても考えていきたいと思いますというところでの資料として入れさせていただきます。（事務局）

●はい、ありがとうございます。あのこの四角の中は、内閣府資料と書いてありますが、これは全国の統計ですか？（皆川部会長）

●そうですね。街並み景観であったり、それぞれ皆さんが色々な建物の色合いとか、街並み景観のルールも統一しましょうとかもそういったところもやっというところもございまして、例えば江津湖で言ったら、こういった自然環境で外来種の除去作業とか色々されていますよね。それぞれされている部分もあるかと思えます。例えば除去のガイドラインを作

って、皆さんが共有して、それぞれやっていらっしゃる部分を一緒になってやっていただく、そのガイドラインに基づいて、どちらかという皆さん共有してやっていくというようなそういうところで活用していきたいと考えております。（事務局）

●何かご意見、コメント等ございますでしょうか？

これから色々な方向性が決まっていく段階で、こういったことも盛り込みながら進めていくということでご紹介いただいたと思います。

参考資料「漱石と水前寺・江津湖」非常に勉強になります。これについてご説明よろしいですか？（皆川部会長）

～参考資料「漱石と水前寺・江津湖」説明後～

●ありがとうございました。それでは最後の議題にあります「今後のスケジュールについて」ということで、ご説明をお願いします。（皆川部会長）

～議題（4）「今後のスケジュールについて」説明後～

●はい、ありがとうございました。第2回協議会が10月10日でそれを踏まえて第4回と第5回環境部会で、基本方針の検討と中期短期の具体的方策、さらにゾーニング計画をもって、第3回の協議会というスケジュールになるかと思えます。かなりこれからタイトなスケジュールで具体的なところまで決めることとなります。頑張らないといけないなと思えますが、スケジュールについて何かございますでしょうか？第4回を現地でということでしょうか？（皆川部会長）

●皆さん現地を見ながらだと進むのかなと思って。（事務局）

●とのご提案がありますが、いかがでしょうか？特に異論なければその方向で進めてさせていただきますと思いますけれども。時間はどのくらいですか。（皆川部会長）

●時間も区切りながら、現地を1時間、その後1時間議論というような、そのあたりはこれから詰めていきたいと、会場も含めてですね。（事務局）

●現場あると会議時間をちょっと長くしないと時間的には厳しいのかと、第4、5回で結構内容を具体化していくという作業が入るかと思えますので、またご相談させていただきながらやりたいと思います。（皆川部会長）

●現地を見るってどこを見るのかなと思って。上江津湖から下江津まで距離もありますので。（坂梨委員）

●なかなか全部を見るというのは難しいかと思えますので、それもこの中でどこがいいとか、今私思っているのは、上江津に貴重な生物もいたり、また外来種もいますし、歴史文化とい

う面でも色々ありますので、そのあたり見ていただくといいのかなと、会議室もそのあたりで行うとなると体育館とかあのあたりなのかなと思いますが。(事務局)

- 例えば、生物の保全の範囲を考える時に、広い面積よりも狭い面積を設定した方がいいということがあるんですけど、そういう意味でいくと、例えばこの間ちょっと言いましたけれども、湧水の場所、どこが水が出ているんだ、どこどこという具体的な例があって、入江先生とかすごくその詳細に場所場所ごとの生物相応のちゃんと整理されているので、そういったデータもあると、すごく分かりやすい。ナベブタがここにいるからここは保全する地帯として必要なんだとか、そういう具体的なことがたぶん入江先生持ってらっしゃるんですね。そういうのがあると見るときも、なるほどこういうことか、という具体性が出てくるのかなと、そこら辺知らないので漠然と見るよりはいいのかなと思います。(坂梨委員)
- 第4回目がいいのかよく分からないところがあるなということが今のご意見のとおりで、もう少し具体的になってこない、ゾーニングにしても皆で共通の認識を持ち具体化してからの方がいいんじゃないかというご意見だったと思います。第4回目がよいか、第5回目がよいか、おそらく5回目の方がいいかもしれませんし、それ以降の方がよいかもかもしれません。(皆川部会長)
- 今4回目で提案させていただいたのが、5回の次の協議会、計画の骨子ということで、計画の基となるものを作りますので、その前に一度見ておいて議論を進めていけたらいいかなと思って、お話したところなんです。(事務局)
- 環境部会が4回、その間には作業部会が入るため、なかなか難しいかなと思いますが、それに向けてかなり急ピッチでやっていくようでないと現場に行く意義とか、なかなか難しいかなと思います。先ほど人の圧力ということで、例えばこの辺は人の圧力が強すぎてこのようになったとか、というような場所に行ったり、こういったところだとか、具体的なところがあれば課題の共通認識にもなるかと思います。どこを見学すべきかは要検討かと思います。(皆川部会長)
- そこは先生とも相談させていただいて、会議の場所もありますし、調整させて下さい。(事務局)
- はい、それでは他にスケジュールに関して、また全体に関することについてでも構いませんので、ご発言されてない方ぜひご発言いただきたいと思いますが、いかがでしょう？(皆川部会長)
- 環境共生課です。スケジュールのことでちょっとお尋ねなんですけれども、今マーケットサウンディングが行われていて、可能性を検討した上で、利活用・保全計画に反映ということになっています。その後に民間活力の公募が行われるという、そこで具体的な、例えば箱ものをどうするかとか、利用をどうするかとかというような公募の提案があると思います。提案があって、それがOKだとか、審査的なものがおそらくあるんだろうなと思うんですけれ

ども、そういったところで、田畑先生、坂梨先生の方々からの意見の聴取というような審査会的なものがあるのかどうかをお聞かせ下さい。(環境共生課)

- どちらかという、提案今いただきまして、いただいた提案をこの場とかで議論をしながら、審査というわけではないんですけれども。まずはポテンシャルがどうなのかということを経験の方々からいただくんですけれども、それが江津湖で実現できるものなのかどうかなどをこの場で議論いただいて、いけそうだったものを来年度実際導入していきたいなというところを考えております。来年度の導入というはあくまでも実施するというのをその前の計画策定である程度固めたいと思っていますので、来年度のあくまでも公募というはもう事業化に流れていくといったような、そういった意味での公募になりますので、どちらかという今ご意見いただいたような審査という言葉が適切か分かりませんが、そういったものについては今年度の計画策定までのこの部会とか、協議会の中で議論を深めていきたいなというところを考えています。(事務局)
- 具体の中にも入ってくる可能性もあるというようなことになりますでしょうか。(皆川部会長)
- そうですね。計画の一部ですね。(事務局)
- はい、他にございますでしょうか？(皆川部会長)
- 田畑さんのおっしゃったことに少し重複するんですけど、作りすぎないっていうキーワードがやっぱりほしいと思います。江津湖のそばに住んでいる人たちから出る言葉が“もうこれ以上、手を入れてほしくない”というものなんですね。それは田畑さん達が見てらっしゃるものを肌で感じているからかなと思いますので、やはり作りすぎないというキーワードは、はっきり入れておいた方がいいと思いました。(大住委員)
- その辺は利活用と保全両方のバランスという表現もありましたけれども、その辺も踏まえて、今後検討を深めていきたいと思います。(事務局)
- “つくる”ことをきちんと議論されないといけないと思っていますので。(大住委員)
- 環境部会の方から発信するときは、そのことについても忘れていってはいけない言葉として、分かるような形で、おそらく今日のものでそのまますと進むわけではございませんので。また今後も議論すべき重要なことで、そこがないと生物多様性の保全はなかなか実現できないと皆さんも考えていることだと思います。ぜひ上手く調整していければと思います。(皆川部会長)
- 細かいことですがすみませんけれども、さっきの中学生の意見のところでも八十一マス思考があったんですけど、具体的な内容をみせていただくと、子ども達がどんなことを考えているのかが分かるのかなと思ったんですけど、さっきこれ拡大してみようと思ったんですけど、

字が見えないんですね。面白い意見だと思うので。(坂梨委員)

●来週(10/10)の協議会の方にもこの資料というのは出てくるんですか?(皆川部会長)

●ちょっとまだ検討中ではありますけれども、これと同じ資料で出すか、ちょっと要約するかどうかは資料が多くなるので。その部分だけ、これは縮小して貼り付けていますので、まちづくりセンターとも確認をしまして、お渡し、お見せできるようなものであれば、もうメール等で情報提供させていただきたいと思います。(事務局)

●他にありますでしょうか?

それでは「その他」ということで、何かございましたらお願い致します。(皆川部会長)

●特に事務局からはございませんけれども、委員の方から逆に何かございましたら、ご質問等お受けしたいと思います。(事務局)

●今新しい艇庫がありますけど、元の艇庫があったところで、熊大のボート庫で、高校生もそこにボートを置いていて、私はそのボート部で一番最後の頃に活動をしていたので、あの頃の舟は舟を置いている艇庫というんですけど、大きな建物の中からボートを出して、江津湖の方に滑らせていくんですね。そうすると昔はローテクだったんで、さっきの話にもかかるんですけど、足元のコンクリートが割れていたり、石がずっとあるようなところを舟を川の中に入れていくと、そこからぷかぷか湧水が湧いているわけです。だからその程度のようにローテクなつくりこみをしない設備、それが元の艇庫だったんですよ。そこで毎日舟を漕ぐのはとても楽しいことで、それこそ漱石が書いているような体験ができる場所なんですね。今は全然違う形なんですけれども。ですので、明治時代とか、昔のローテクを上手くできるだけ活かして、この後につなげていけるような色んな設備とか、そういうのを望みたい。ノスタルジー半分ですけども、そういった配慮があるのもっといいかなということでお話をさせて下さい。以上です。(歌岡委員)

●つくり込んでしまうと維持管理もかかってしまいますので、ローテクは維持管理のスパンは短いんですけど、お金があんまりかからないとか、持続的に維持できるというメリットもたくさんあると思います。自然にも優しいというところだと思います。整備の仕方についても注目していければと思いますけれども。他にありますでしょうか?

ないようですので、事務局にお返しいたします。(皆川部会長)

以上